

Title	コーポレート・カルチャーと英雄伝説
Sub Title	
Author	後藤哲史(Gotou, Satoshi) 奥村昭博
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1988
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1988年度経営学 第599号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001988-0599

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

後藤 哲史

主査 奥村 昭博

(日本電気株式会社)

副査 石田 英夫

所属ゼミナール 奥村 昭博 研

矢作 恒雄

コーポレート・カルチャーと英雄伝説

企業が取るアクションが、同じ環境変化にあっても、企業毎に異なるのはなぜか。これは、企業規模や事業形態の違いによるところよりも、その企業の持つコーポレート・カルチャーの違いによるところが大きいのではないだろうか。本論文では、このような問題意識に基づいて、コーポレート・カルチャーの違いによる環境の対応への影響について研究した。

コーポレート・カルチャーの研究は数多く成されているが、本論文ではこのうち手薄な分野として残されている英雄の存在について焦点を当てた。研究は、企業を環境変化への対応の仕方とコーポレート・カルチャーに於ける英雄伝説の影響の有無という二軸から四つのタイプ、ベンチャー型カリスマ組織、宗教型カリスマ組織、大企業型官僚組織、役所型官僚組織に分類し、それぞれの特徴について分析した。この結果を基に、英雄伝説伝承モデルを構築して、英雄伝説の企業に於ける役割についてまとめた。

本論文から導かれた成果は、①英雄とは、その企業にコーポレート・カルチャーを定着させたことで貢献した人物であること。②英雄伝説の影響を受ける企業とそうでない企業を比較すると、前者の方が業績的に上回る傾向があること。③英雄といえど万能ではなく、コーポレート・カルチャー定着後も直接影響を持ち続けている英雄は、神格化した存在となり活性度という点からは、マイナスの影響を持ち始めることである。